



モーニングスター アワード
「ファンド オブ ザ イヤー 2016」
国内株式中小型 部門
優秀ファンド賞受賞



トムソン・ロイター
リップラー・ファンド・アワード・ジャパン 2017
『投資信託』部門 分類：株式型
日本 インカム 【評価期間5年および10年】
最優秀ファンド賞受賞

受賞についての詳細は最終ページをご覧ください。

三井住友・配当フォーカスオープン

第14期決算および分配金のお支払いについて



平素より「三井住友・配当フォーカスオープン」（以下、当ファンド）をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。さて、当ファンドは2018年1月25日に第14期決算を迎え、以下のように分配を行いましたので、市場見通しや今後の運用方針等と併せてご報告いたします。

分配実績（1万口当たり、税引前）

当ファンドは、年1回（1月）決算時に、原則として経費控除後の配当等収益を中心に分配します。

当期の分配金は、配当等収益等を勘案し、410円といたしました。分配金お支払い後の基準価額は21,324円となりました。

決算	-	2016年1月	2017年1月	2018年1月	設定来累計 (2018年1月25日まで)
	第1～11期	第12期	第13期	第14期	
分配金 (対前期末基準価額比率)	1,980円 (19.8%)	380円 (3.1%)	430円 (3.0%)	410円 (2.6%)	3,200円 (32.0%)
騰落率 (税引前分配金再投資ベース)	49.9%	17.7%	15.7%	35.5%	176.6%

(注1) 「対前期末基準価額比率」は、各期の分配金（税引前）の前期末基準価額（分配金お支払い後）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。第1～11期と設定来累計の欄は、それぞれの分配金累計（税引前）の設定時10,000円に対する比率です。

(注2) 騰落率は税引前分配金再投資基準価額を基に算出したものであり、実際の投資家利回りとは異なります。また、騰落率は設定来累計を除き、期中騰落率を記載しています。

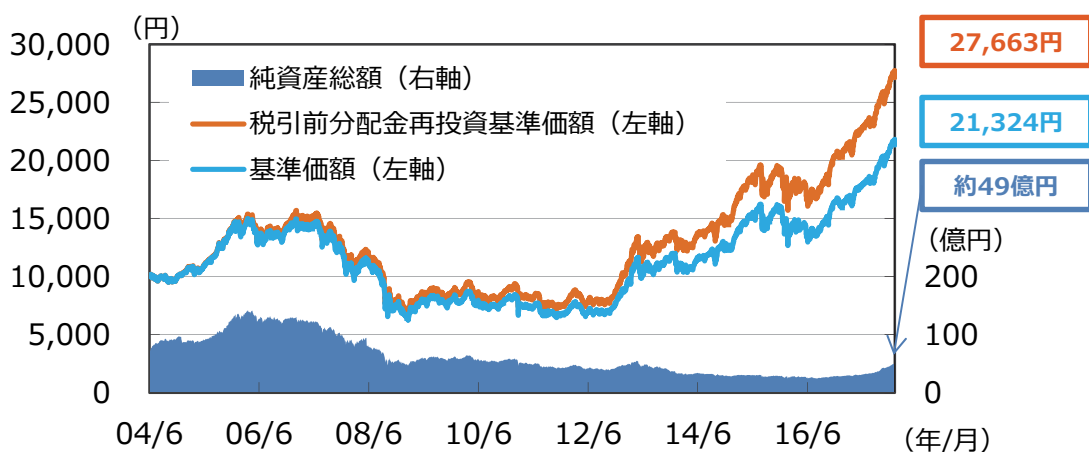
分配方針

- 年1回（原則として毎年1月25日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。
- 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分も含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、原則として経費控除後の配当等収益を中心に決定します。なお、経費控除後の売買益等については、基準価額水準を勘案して分配することがあります。

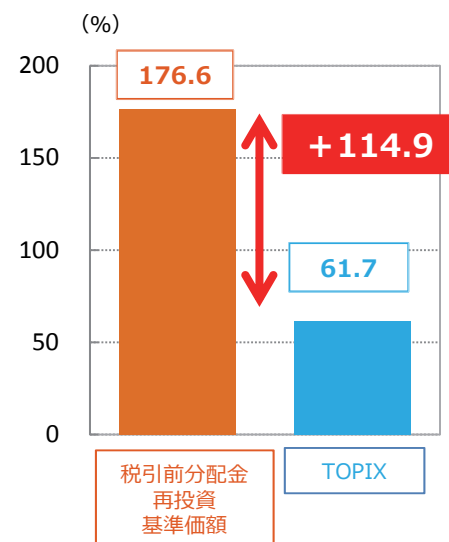
※上記は過去の実績であり、将来の分配を保証するものではありません。運用状況によっては分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合もあります。

当ファンドのパフォーマンス

＜基準価額と純資産総額の推移＞
(2004年6月22日（設定日）～2018年1月25日)



＜設定来騰落率＞
(2004年6月21日（設定日の前日）～2018年1月25日)



(注1) 基準価額、税引前分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

(注3) TOPIX（東証株価指数）（配当なし）は参考指数であり、運用上の目標となるベンチマークではありません。

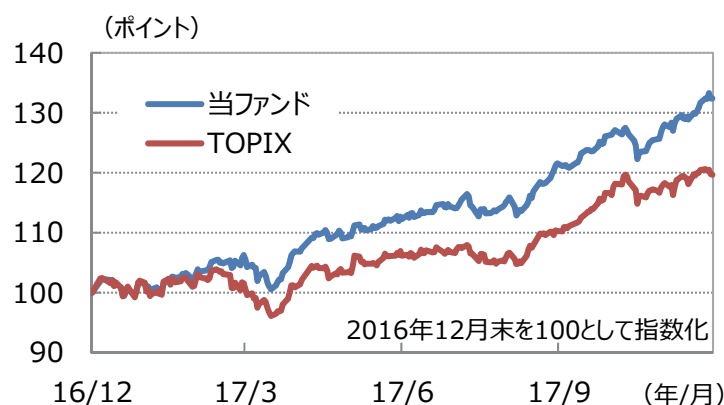
(注4) 騰落率は税引前分配金再投資基準価額を基に算出したものであり、実際の投資家利回りとは異なります。

当ファンドの期間別パフォーマンス (2017年12月末現在)

＜期間別パフォーマンス＞
(2017年12月末との比較)

	当ファンド	TOPIX (参考指数)
1か月前比 (2017年11月末)	3.7%	1.4%
3か月前比 (2017年9月末)	8.9%	8.5%
6か月前比 (2017年6月末)	17.9%	12.8%

＜過去1年間のパフォーマンス推移＞
(2016年12月末～2017年12月末)



(注1) 当ファンドのパフォーマンスは税引前分配金再投資基準価額を基に算出。パフォーマンスは実際の投資家利回りとは異なります。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後。

(注3) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

(注4) TOPIX（配当なし）は参考指数であり、運用上の目標となるベンチマークではありません。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは6～7ページをご覧ください。

組入上位10業種と銘柄 (2017年12月末現在)

組入上位10業種 (%)			組入上位10銘柄 (%) (組入銘柄数 76)				
	業種	比率		銘柄	業種	比率	配当利回り
1	サービス業	14.8	1	日鉄住金物産	卸売業	2.1	2.6
2	情報・通信業	14.6	2	伊藤忠商事	卸売業	2.1	3.3
3	建設業	11.2	3	キヤノン	電気機器	2.1	3.8
4	卸売業	10.8	4	あおぞら銀行	銀行業	2.0	4.2
5	小売業	6.4	5	N T Tドコモ	情報・通信業	2.0	3.8
6	その他製品	5.8	6	日産自動車	輸送用機器	1.8	4.7
7	化学	5.4	7	日本バルカー工業	化学	1.8	2.6
8	銀行業	5.2	8	K D D I	情報・通信業	1.8	3.2
9	機械	4.6	9	兼松	卸売業	1.6	2.6
10	輸送用機器	3.1	10	S R Aホールディングス	情報・通信業	1.6	2.7

(注1) 構成比を示す比率は当ファンドの純資産総額を100%として計算。

(注2) 業種は東証業種分類です。

(出所) NPMのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

※ 上記は組入銘柄の例であり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

市場見通しと今後の運用方針について

＜市場見通し＞

成長戦略の具現化が進捗するなど、デフレからの脱却を柱とした「アベノミクス（安倍政権による一連の経済政策）」の効果は徐々にではありますが顕在化していると考えています。米国における今後の金融政策や経済政策に注目が集まっていますが、その政策によっては世界マネーの潮流および為替水準が大きく変化する可能性があります。また地政学リスクのさらなる高まりにも留意する必要があります。当面はこのような海外要因に対して神経質な展開が続くと思われるものの、景気や企業業績が堅調に推移するなど、国内におけるファンダメンタルズ（経済の基礎的諸条件）は良好であると考えています。株式市場は堅調に推移し、短期的には過熱感から調整する可能性もありますが、調整したとしても下値は限定され堅調な展開が継続すると予想しています。

＜今後の運用方針＞

「高水準の配当を継続できる銘柄に投資する」という観点で投資銘柄を選別していく方針です。企業の株主還元姿勢に加え、業績動向、キャッシュフローの創出力や配当余力など、様々な側面から銘柄を抽出し、ポートフォリオを構築していきます。

※ 上記の市場見通しおよび今後の運用方針は当資料作成時点のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

ファンドの特色

1. 配当フォーカスマザーファンドへの投資を通じて、主に日本の株式に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
 2. “配当”に着目した銘柄選択により、「中長期的な株価の上昇」と「配当収入」による信託財産の成長を目指します。
 - 企業の事業活動の結果、獲得した利益は、①設備投資やその備え（内部留保）、②借入金返済による財務体質強化、③配当等による株主還元配分されます。
 - その中で③「配当等による株主還元」に積極的な企業は、収益の将来性と財務健全性を備えた企業であるとの観点から“配当”に着目します。
 - 株式投資の収益の源泉 = 株価の上昇 + 配当収入であり、繰り返し増配できる企業は収益性、財務健全性が良好で、株価の上昇も期待できます。
 3. 東証1部・2部に上場する企業の中から、配当政策の指標となる配当性向や配当水準の指標となる予想配当利回りに加え、収益性、財務健全性等を加味した組入候補銘柄群を抽出します。
 4. 組入候補銘柄群の中から組入銘柄を決定するポイントは、以下のとおりです。
 - 配当政策に「積極的な株主還元姿勢」が示されている銘柄や増配余力があり積極的な配当政策への転換が期待される銘柄等と、「予想配当利回り」が相対的に高い銘柄の中から総合的に評価を行い、銘柄を決定し投資することで中長期的な株式投資による収益の獲得を目指します。（約7割）
 - 委託会社独自の手法を用いて算出した「投資魅力度」の高い銘柄に投資し、追加収益の獲得を目指します。（約3割）
 5. 株式の実質組入比率は、原則として高位とします。
 6. 年1回（1月）決算時に、原則として経費控除後の配当等収益を中心に分配します。
 - 基準価額水準等を勘案し、経費控除後の売買益等からも分配することがあります。
 - 基準価額水準によっては、委託会社の判断により分配を行わない場合があるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドは、主に日本の株式を投資対象としています（マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。）。ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化等の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、ファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流出入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかした場合は同様です。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

お申込みメモ

購入単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

購入代金

販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

換金単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の基準価額となります。

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

信託期間

無期限です。(信託設定日：2004年6月22日)

決算日

毎年1月25日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

配当控除の適用が可能です。

※上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

○ 購入時手数料

購入価額に1.62%（税抜き1.50%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

○ 信託財産留保額

ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

○ 運用管理費用（信託報酬）

ファンドの純資産総額に年0.9072%（税抜き0.84%）の率を乗じた額です。

○ その他の費用・手数料

上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。

※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ：http://www.smam-jp.com 電話番号：0120-88-2976 [受付時間] 営業日の午前9時～午後5時
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人投資信託協会	備考
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		※1
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第52号	○		○	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○			○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第20号	○					
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○		○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○		○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社愛知銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第12号	○					※2
株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第19号	○					
豊田信用金庫	登録金融機関 東海財務局長（登金）第55号	○					

備考欄について

※1：「ダイレクトコース」および「投信つみたてプラン」でのお取扱いとなります。※2：新規の募集はお取り扱いしておりません。

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- TOPIXは、株式会社東京証券取引所が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

●モーニングスター アワード「ファンド オブ ザ イヤー 2016」について

Morningstar Award “Fund of the Year 2016”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2016年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式中小型 部門は、2016年12月末において当該部門に属するファンド250本の中から選考されました。

●トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2017について

トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワードの評価の基となるトムソン・ロイター リッパー・リーダーズのファンドに関する情報は、投資信託の売買を推奨するものではありません。トムソン・ロイター リッパー・リーダーズが分析しているのは過去のファンドのパフォーマンスであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リッパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

重要な注意事項

- 当資料は、三井住友アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当資料に評価機関等の評価が掲載される場合、当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。